

「ふじのくに福産品」ロゴ作成

静岡文化芸術大生が考案

県は19日、障害者が手
作りする授産品の愛称
「ふじのくに福産品」を
より多くの人に知って
もらうと、ロゴマークを
作成して公表した。静岡
文化芸術大3年の大坪史
明さん(22)の作品で、「良
い」の意味を持つ丸印を
三つ描いて「品」の字を
表現。「良い品」と連想
できるデザインにすると

ともに、作る人、売る人、
買う人が支え合い「福産
品がより良い品になるよ
うに」との願いも込めた。
大坪さんと、それぞれ
別の案を考えた、いづれ
も同大3年の鈴木彩加
さん(21)、鈴木友香さん
(21)、林優歩さん(21)が
同日、県庁に川勝平太知
事を訪ねて報告した。
キャッチコピーは「幸

障害者手作り品 愛称普及

福(しあわせ)産みだす
この一品。作成にあた
って福産品について学ん
だという大坪さんは「障
害のある方が一つ一つ丁
寧なものづくりをしてい
ることに感銘を受けた。
丸三つといえば、福産品
と分かってもらえるよう
になるとうれしい」と話
した。

授産品は障害者が自立
を目指す、主に障害福祉
サービス事業所の一つ
「就労継続支援B型事業

所」で作る製品。県民が
授産品をより身近に感
じ、購入が増えるよう、
県は愛称を公募して昨年

10月に決定した。今後、
各事業所が福産品販売時
に利用できるロゴマーク
入りシールを作成する。



「ふじのくに福産品」のロゴマークと作成した
静岡文化芸術大の大坪史明さん(右)ら
＝県庁、19日午前